

2021年3月22日

政策研究大学院大学学長選考会議

政策研究大学院大学長の業務執行状況の評価について (2020年度)

【業務執行状況の評価】

政策研究大学院大学長田中明彦氏は、本学の目的「政策及び政策の革新にかかわる研究と教育を通して、我が国及び世界の民主的統治の発展と高度化に貢献すること」を踏まえ、本学の研究と教育の発展、マネジメントの改善に優れたリーダーシップを発揮し、適正かつ順調に業務を執行してきたと評価する。

特に、以下の点を高く評価する。

- 学長として、研究、教育にリーダーシップを発揮しながら、学長自らも多くの政策提言に携わるなど、対外的な活動に積極的に取り組むことで、本学の知名度と評価の向上に寄与していることを、経営面から高く評価する。
- 本学の研究、教育、大学運営すべてにおいてSDGsを重視するという方針を打ち立て、SDGsを中核に据え、本学の研究教育をまとめ上げながら推進していこうとしていることや、女性副学長を登用するなどSDGsの実現に寄与していることを高く評価する。
- 法人の長として、ガバナンス体制の確立、効率的な資源配分に取り組み、組織改善が着実に前進していることを高く評価する。
- 夜間や休日に履修できるコースの開設などを通じて学生の確保に積極的に取り組み、減少傾向にあった学生数を増加に転じさせた点を高く評価する。
- 特に2020年度においては、これまでに例を見ない新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況の中で、感染予防対策の実施、オンライン講義の実施、新規来日をする留学生への配慮等、的確に大学運営を行い、影響を最小限にとどめたことを高く評価する。

【今後期待すること】

本年度、学長選考会議は、田中明彦現学長を次期学長候補者として選考した。来年度以降も引き続き、本学の目指すべき将来像の提示や組織ガバナンスの一層の強化などにおいてリーダーシップを発揮し、本学の一層の発展を牽引することを期待する。

【確認経過】

学長選考会議に学長を招いて実施したヒアリング(2020年11月5日、2021年3月22日)及び所信表明聴取(2020年12月14日開催)を踏まえ、本年度の評価を行った。